

# Windomの解答速報 日本医科大学後期 英語

[I]

問 1 thing that impedes our cognition is

問 2 ある作業から別の作業へとすぐに切り替えるときに、前にやっていた作業をするための別の種類の集中力が後の作業をするときにも残ってしまい妨げとなる状況

問 3 (1)Newport (2)電話または E メールを使う時間を設けて、それ以外の時間はすべて集中力を使う作業に没頭すること。

問 4 (3)創造的な思考を促進するのではなく妨げると本文には書いてある。(4)作業を中断されない時間を確保したのは Leroy ではなく Newport であると本文には書いてある。

[II]

問 1

1 descend 2 predicted 3 limits 4 arose 5 passed

問 2

(2) consciousness (3) primarily (6) loss (7) serious (9) psychological

[III]

略

[IV]

1 (c) 2 (a) 3 (a) 4 (b) 5 (d) 6 (c)(d) 7 (a)(c) 8 (a)

[V]

9 (a) 10 (c) 11 (d) 12 (d) 13 (d) 14 (a) 15 (b) 16 (d) 17 (a) 18 (b) 19 (b)(d) 20 (c)

[講評]

前期と同じ出題形式。大別すれば、読解 2 題、文法・語法、音声 1 題、英作文 1 題で構成されている。

大問 1 は読解問題で、整序英作、下線部説明、内容一致問題などから成る。問 3 の具体例を説明する問題は、本文に登場する複数の論者の議論を整理して、誰が実体験に基づく議論をしているのかを読み解くのがポイント。さらにその内容を当該論者の個人的体験ではなく、一般論として説明しなければならない。したがって、研究者としての視点で書いた解答は減点となる。

大問 2 は、問 1 が読解文中の空所を選択肢の語で補充させる形式で、日医の読解問題では伝統的な形式である。昨年度の大幅な出題形式の変化にも関わらず、この形式は引き継がれているので、過去問を解いていれば解きやすいものであったであろう。また、問 2 の文法の正誤判定問題も、誤っている語を直させるという他の私立医学部には見られない日医らしい形式となっている。これも従来の形式を踏襲したものである。両問題とも確実な文法・語法の勉強をしていけば得点源になるものである。

大問 3 は英作文で、語数は指定されていない。「独学」と「教師に教わる」のとどちらがよいのかという問題であるが、設問条件に従って、「理由」と「実例」を書かなければならない。それらがなければ大幅に減点されるだろう。

大問 4 は、語法・発音・アクセントの問題であり、一番解きやすい問題であったはずである。完答が期待される。

大問 5 は、大問 1 と同じ容量の読解問題だが、マークシート形式である。音楽感覚が先天的なものではなく後天的要因に規定されることを述べたもの。特に、枝問 11 で(a) cultural が他の選択肢と違って形容詞なので直前の前置詞 from の目的語に出来ないことに注意したい。

以上を総じて、後期の問題は日医の出題として質量的に妥当な問題であったと言えよう。

